

第51回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	上島ゼミ	チーム名	YASUHIRO UESHIMA
タイトル	ファストファッションについて考えてみよう(/・ω・)/		
テーマ群	e)産業・その他 g)その他		
メンバー	高木祐真 竹内悠真 朝田翔也 川瀬雄太 久保有友香 宮丸舞子 吉田佳代		
研究計画内容	<p>【研究背景】</p> <p>2000年代半ばからトレンドに合わせた商品が大量に生産されて低価格で販売され、短いサイクルで商品が入れ替わるファストファッションが流行した。従来、アパレル企業は3~6ヵ月単位で商品を企画していた。しかし、予想外のヒット商品がでた場合に対応するため、一年間を52週間に分け、店頭での売れ行きなどを基に、週ごとに商品企画や販売計画を立てる手法「52週MD(マーチャンダイジング)」を採用した。加えて、大手アパレル企業は製造拠点を海外に移すことにより、ユニクロやZARA、H&Mと同じように人件費を安く抑えて、大量生産によるスケールメリットを生かして製造コストを削減する。しかし、流行を完全に予想することは難しく、また「サプライチェーン」の情報を正確に把握できないために、全体を管理できていない企業は不良在庫を抱えることとなる。</p> <p>これにより、ファストファッションは大量廃棄や有害物質の排出、途上国における劣悪な労働環境が問題視されるようになった。</p> <p>【研究内容】</p> <p>はじめに、既存の研究を通して、アパレル産業の歴史と今なぜ環境問題や労働環境が問題視されているのかを説明する。次に、周囲の人に対してアンケート調査を行い、ファストファッションの認知度や各個人が気をつけている点を調査する。最後に、これらの問題に対して現在のファッション業界はどのような対策をとっているかを調査し、ファストファッションは今後どのように変化していくのかを予測する。</p> <p>【期待される成果】</p> <p>ファストファッションの流行が生んだ問題を解決することは、地球温暖化の保全と途上国の健全な経済発展につながる。さらに、私たち自身がこれらの問題点を理解して消費者主権を行使することによって、アパレル業界のビジネスモデルをあるべき姿に変えることができる。</p> <p>(出典) 杉原淳一 染原睦美「誰がアパレルを殺すのか」日経ビジネス人文庫</p>		